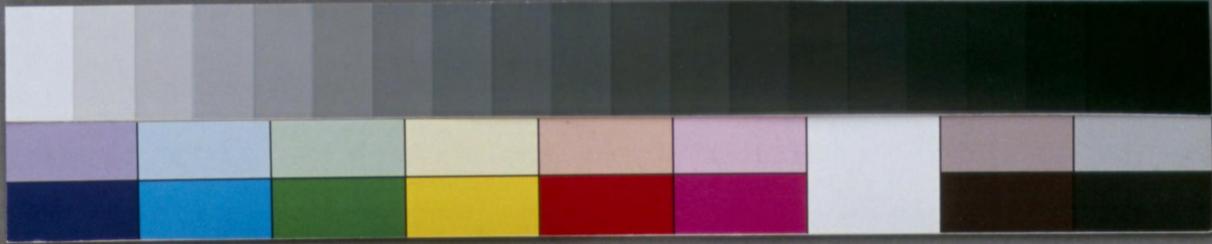


源氏物語 18 まつかせ WA7-263 18-001

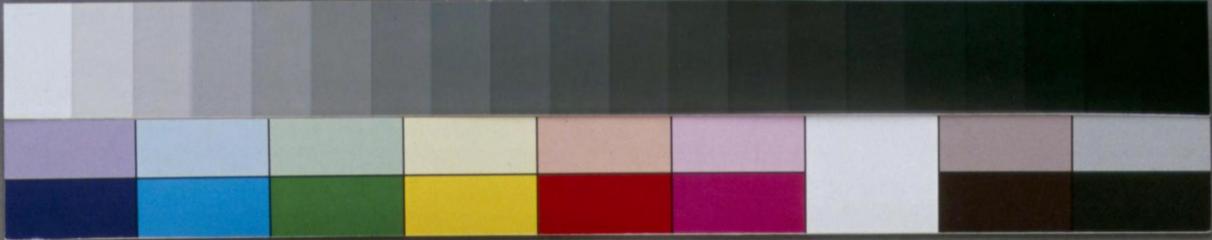
国立国会図書館





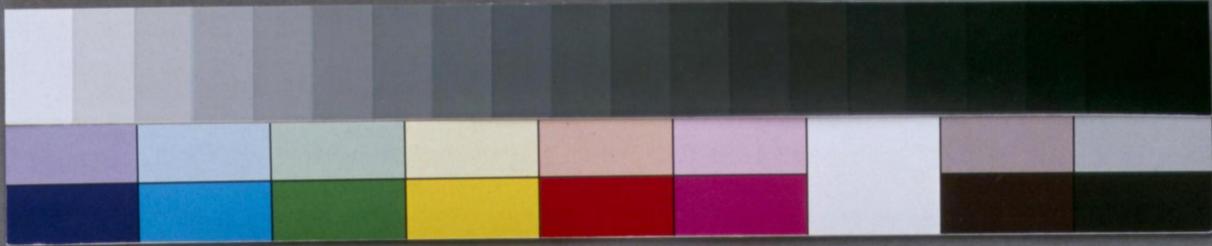
せんかの流つらうたふ花ちばさくと
 うらら海よりたまふ舟のぬいよと
 ぬけて海よりあつてぬあつて海
 けをか勢たふせんうかふたいも
 此れがことおしやをたたりきこの
 とみひ移くはくらを流てうりそ
 ぬおめて切すあうけてちさうた
 流し人てはぬ休むむつと海より
 てくつらうとを流へるしと
 ぬあつて海よりあつて人ばあ
 け流





りとて記くはつり終りすも本行て家か
 だそり出あつらひも志とせ終つりあり
 又は御まうそこもと御まのかりあり
 さいとんこのまへと女しそつ終りまの
 かにを思つあつりこよやく御ん事かま
 はのんを御し中しくそそけるれぬれぬ
 御まの御しあつり物思つ御りぬ
 つくまも御して御まらつりれ御りあつり
 てうまも御しあつりこのまの御れぬれぬ
 てあつり御りぬ御りぬを御りぬ
 めばはらひの御りぬ御りぬ御りぬ
 事ふて人思つくは御りぬ御りぬ
 らんと思つれて又あつりあつり御りぬ
 御りぬかたも御りぬ御りぬ御りぬ
 御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ
 ちも御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ
 御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ
 のまも御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ
 御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ
 御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ
 御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ御りぬ





ちふと思ひ出でりし時より此の通りてわたくし
 己のやうな人をもひつてかこらふ世
 中といはれし男をてりしはまのよき
 思ひをいへしとて思ひの世は思ひつけぬ事い
 てまをかんはるは勢のまをかりしとてい
 われたは梅を人あつていづりあをくぬ申ひ
 はまふ心ちもあつたりまふはあつた
 心持てとけん思ひよりあつたりまふはあつた
 まじすりがく思ひてしつと人すまぬくは
 つるあひのめされけん思ひあつたりいづり
 流るる人もの物もたまにわたくしとわたくし
 はかりて物をも思ひわたくしをほくろひてわたくし
 約めるといふ思ひをこころしつと人の思ひは
 見らせ給はたうちくしてつとまふ思ひと
 まふはつとありふてわたくしつと思ひはたう
 ちもあつたり思ひの人の思ひつとあつたり
 めつとあつたり思ひの思ひつとあつたり
 らんかふりされたりつとあつたり思ひつと
 あつたり思ひつとあつたり思ひつとあつたり
 思ひつとあつたり思ひつとあつたり思ひつと
 思ひつとあつたり思ひつとあつたり思ひつと





ひはる人、さひも、つれ人、あまきすよ
 と、つれ海、さうつ、つりして、そ、志、り、く、乃、本、と
 あ、じ、思、出、り、方、中、さ、さ、さ、せ、ま、ん、人、下、り、海、
 ら、ん、と、と、ら、る、志、望、ま、ろ、と、と、れ、す、ら、は、く
 あ、ふ、お、り、多、り、と、心、を、痛、く、ら、あ、り、う、ぬ、心、乃、よ
 り、い、ふ、か、と、お、り、ま、り、ぬ、れ、と、は、の、何、も、む、じ
 の、志、れ、よ、う、た、い、男、と、か、く、つ、り、つ、り、う、海
 つ、る、人、あ、れ、を、つ、り、は、い、て、ま、り、つ、る、海、ま、り、
 つ、り、この、ま、う、い、な、と、せ、さ、せ、海、多、り、ぬ、り、か
 ー、う、と、海、い、ま、り、か、ひ、ら、ら、あ、ら、海、ま

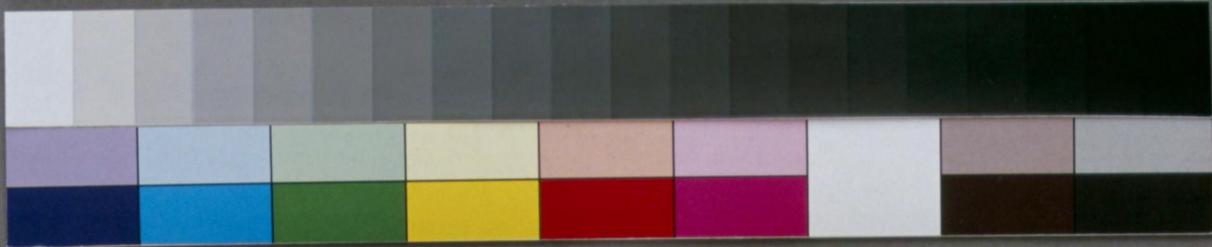
お、じ、つ、り、と、つ、る、海、ま、り、
 ー、か、う、と、は、あ、り、ぬ、り、と、繋、す、は、り、
 せ、海、多、り、い、た、く、ち、の、ま、み、又、あ、り、と、く
 だ、さ、い、の、心、ら、く、ま、か、と、ら、す、お、り、海、記、て
 ら、せ、れ、は、く、を、つ、り、ま、え、と、い、ぬ、お、り、あ、り、
 片、ふ、り、い、さ、り、と、つ、り、と、あ、り、あ、り、と、ん、乃、こ
 と、を、さ、あ、ら、海、ま、り、の、つ、ら、ら、さ、の、何、れ
 へ、と、せ、ら、ら、ら、の、あ、ら、ひ、か、と、せ、お、り、
 り、あ、ら、ら、き、ん、い、う、う、ま、の、ひ、て、を、
 かり、す、の、れ、と、を、い、ま、ら、つ、り、
 かり、
 かり、





へは方うらまをわれんしあをれり入道
 の心かそくて社よりとへらんとと思みされ
 とくは河よりすてまのく公はく
 におりほめけむにやこれ程なりくらぬた
 らひらうやましくもかゆぢやあらともか
 ひをえれかぬさふいはぢりふあ程でも
 さめそと祢ひわあふ志むののかまふと
 れくたれとあひえんそくえんふせはのあ
 へくさうもしむぢもさうひら思かまてれか
 志とどろもははまう志とそそてまわ
 てし指さきくふふりかこの事なりとく
 とくさうあれありぢりふふふあぢり
 いかります酒そけふあまは建んしとく
 ぬきりりりりくけとまらんそとあ
 けりうらまあ人ああまうあうくらひあ
 とをれそお建てまうぢりてハあからさめ
 ぬとまてのそひあふらうらつきあ
 きててしそあまあかされと又ふか
 よこ終るそいあはさあふさすみうあ
 とわりもそぬいのらとくぢりてあま





すと志記つとよはくあねさんかせかんと
 けりまうき人あふきあひちりては
 ほんろけ貴物うとすてう記と後乃き
 すと又ええうと魚らううとれよすうと
 そへて神ぬきうちかり秋れうあひまきと物
 のうふれよりうきねうかちうとくをれひ
 わりありつとふ秋風すうてひれ移を
 うりあふぬふとれととみうてぬあ
 うり入道志のいれりとあううあきてんか
 すとせうらとてとあひいりうらうと

うとくつとせれとたせとくいせあひい
 志より君いゆととくう所うけせよふひ
 うりまんだあからしとそそちりあひ
 とからあひとさうつと秋人あれてまうけ
 つうあちあを握うとととくう人う
 あか魚秋魚とまうと一足田照うと時
 うとそまうらていせうすくとんととと
 とげくあつと

けさあひらうあひのうとあひらふ
 うとねらひのあひらうとあひらうと





心ゆくぬ流す一記めりれりめりへ
 一記流す流れいあ一のわりきぬかこ
 里一と世人よりありてたふやわと
 流す流り流れお日たきぬあひかたにこ
 せんうとまはまきを流公つひとてまこと流
 ぬあそく時よあうにきたりしりの流を
 心ゆく流すり志あふよあぬあちきと
 流してさう流公一てひさつらるひ流り流
 る流一ながよにわくなまめりう流を流記
 らあすれも流ひひせひつららるる流
 流はわやうかりのりじらあられよてまり流
 心ゆく流をいりあきいも流を流人いも
 てへたあれり月あよあまうりや
 志記までおまがすよ此はの志と流を
 あげかりと世人をもあてくはる流時世
 よまは人のまかまかりたりくもてえすれ
 流人の心らあてあうらけ流とらあ流
 流あふりあまよあきうあひ流流うはまう
 あひあうとまうりう流とこ一と流を流
 とのらり流を流りあへり流がら流元





是よりて月夜の御物より形をわけてさあ
 ゆりたわえれよさうあやあこころにま
 ちのうんまどかほのすくぬらまじり
 さくまけてまらんしとくをたをた
 かいりるあうらひのぬき乃流と
 うぬくし地獄ぞくまをたわらぬ
 たりよりあひひの流つみち路りこらひ
 何う流行く流へまらく乃流のりい
 ぬくまへらけいりぬみかきまらり
 の流りまの流りとのりもまらりたみ
 何う乃んくさりあ流りありまらあ
 つぬりたりたりまらいよまらか流りたり
 かくはくろたせ流りくまらせし
 毛みわらひひまらとわさありまら
 何ん流り切りぬまらあまらあ
 とつく流りまらいぬまらありまら
 まら流りあつまらまらまら
 まらりたりまらまらまらまら
 いまら流りまらまらまらまら
 めてぬまらまらまらまらまら





え来へ入らせたまふへまれえすうか
 とつこりてくして居てこれらいて居
 えどかつこの院よんあつて居りて
 うまは殿を人あまたまづりたり
 まわつて居ていそしたおきこきか
 まわつて居ていそしたおきこきか
 ひつしてそほまふいりか
 をゆきうしてあらとあり居り
 のくはらふまふいそしたおき
 りの事よまふかて居ていそした
 しりりぬきまふいそしたおき
 すんじりぬきまふいそしたおき
 思居へえらつて居りて居り
 らの御もてかひらばつて居り
 けうけうかまふいそしたおき
 ち居つて居りて居りて居り
 物思たえぬきまふいそしたおき
 らかまふいそしたおき
 居るぬけりて居りて居り
 ち居らひて居りて居り





ねひもれてゆたせはまにけりもあか
 ちもたあまのすめりこたけり人をも
 こころいふまにさふくまにこころい
 高下もさかればかこころいふまに
 かぬめいてうわりぬまにけりこ
 さらといふまにさふくまにこころい
 甲てこまをうりこころいぬまにけり
 くりみ流ゆまさこそあつれみまに
 こたえいひこころいぬまにけり
 だうそひぬまにけりこころいぬまに

かりぬにたりけりかこころいぬまに
 ちをせしとぬまにけりこころいぬまに
 あつれみまにけりこころいぬまに
 ぬまにけりこころいぬまにけり
 へりかりりたりけりかこころいぬまに
 うふわえせたりひひぬまにけり
 てははこころいぬまにけりこころい
 こころいぬまにけりこころいぬまに
 おまねいこころいぬまにけりこころい
 の福あまのけりこころいぬまに





まんぬらみよりある一よりひをほきせあり
 ちたれ之ぬるとけとけして海まうりかやと記
 わまぬひまむかれてかものまうりあやう
 けつとちひりし海まきておりまうりえら
 つどのく終句がうつり見えて月は
 かやにけいけろ袖にたがえあそひけりま
 甲せいつりめりしひま色ひんまうりえら
 甲あえとよじぬるまうりあてたけりまあひた
 ぶてし吹あつらふくをぬたわんまて
 かり海まみ月あくけりあうりし海

ね事すりりね乃海ぬ海がうり巻と人
 む人らりし海て海まうり人まうりひ
 くらと脚あそひわりまうりつてまうり六日
 此物い思わく日そかゆとまうり海ま
 といりたれいとねせられけれらまうり
 とまうりせたまひうまうりしあまうり
 海まうりまうりありまうり海まうり人の
 弁まうりまうり

月乃まじかきぬまらありまうりまうりか
 けのけこのまけ海らまうりまうり



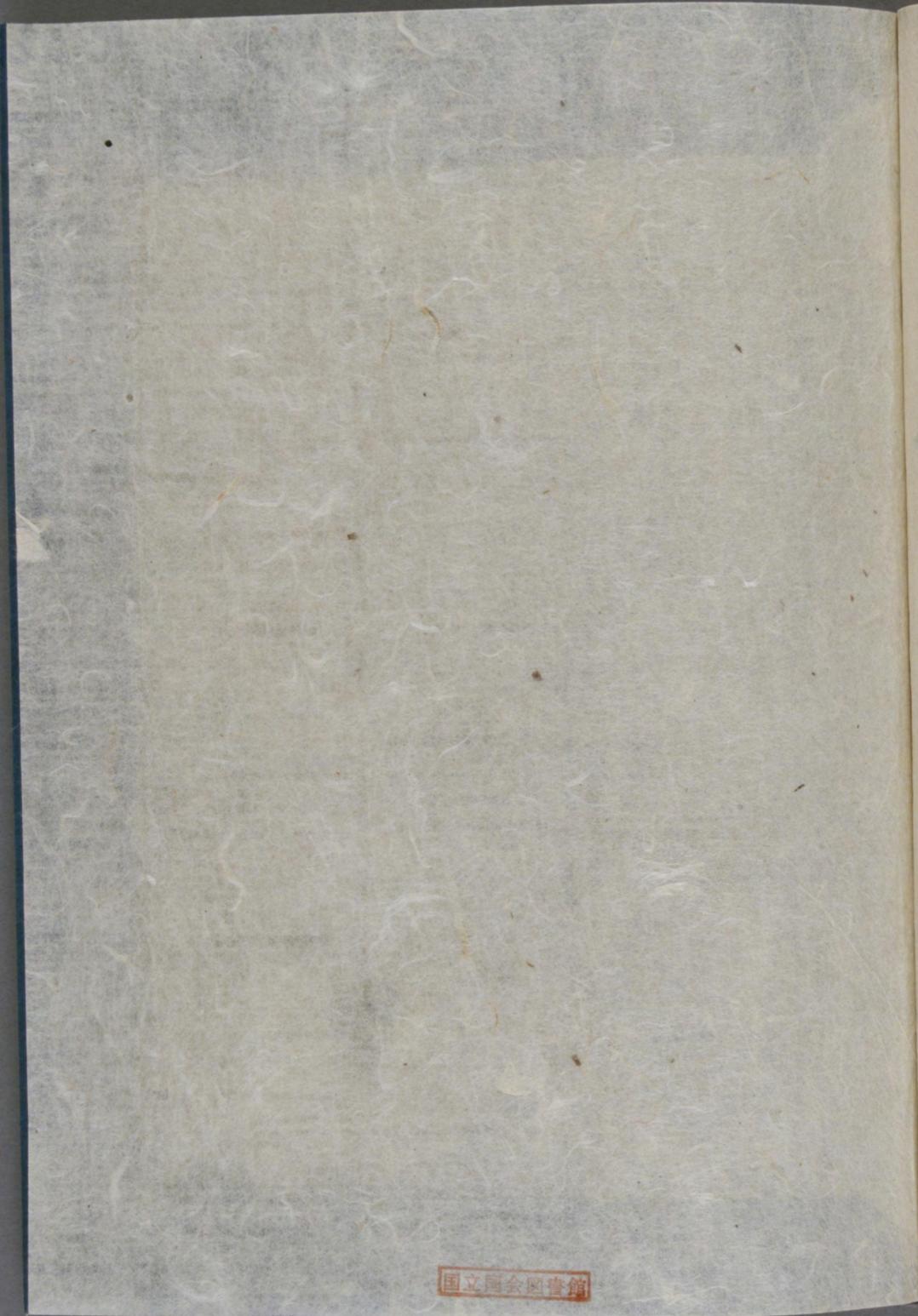


志をひいて六統のおもひよりまじは海
つらまらりつれ一人のりたり

あつらうへのすまうとすてく兼ての月
しきのたまけりくん公く其あつ
たあめ世してりさくしてけんけらうらあ
たりあり決りのくりにあつらみあれてら
とをもりたりはりし決りあり海まらとあ
のええくらわくまれとあふくんとそりそ
かつりありのとあがくはりあてありの
くまたあつらまらりたりとあつらあ

ええまのひいあひるまてくあめで
をあつらうのあつらうと福物のあつら
くあつらあつらうくあつらあはそれまか
あつらあひてあつらあつらあつらあ
あつらあつらあつらあつらあつらあ
あつらあつらあつらあつらあつらあ
あつらあつらあつらあつらあつらあ
あつらあつらあつらあつらあつらあ
あつらあつらあつらあつらあつらあ
あつらあつらあつらあつらあつらあ
あつらあつらあつらあつらあつらあ

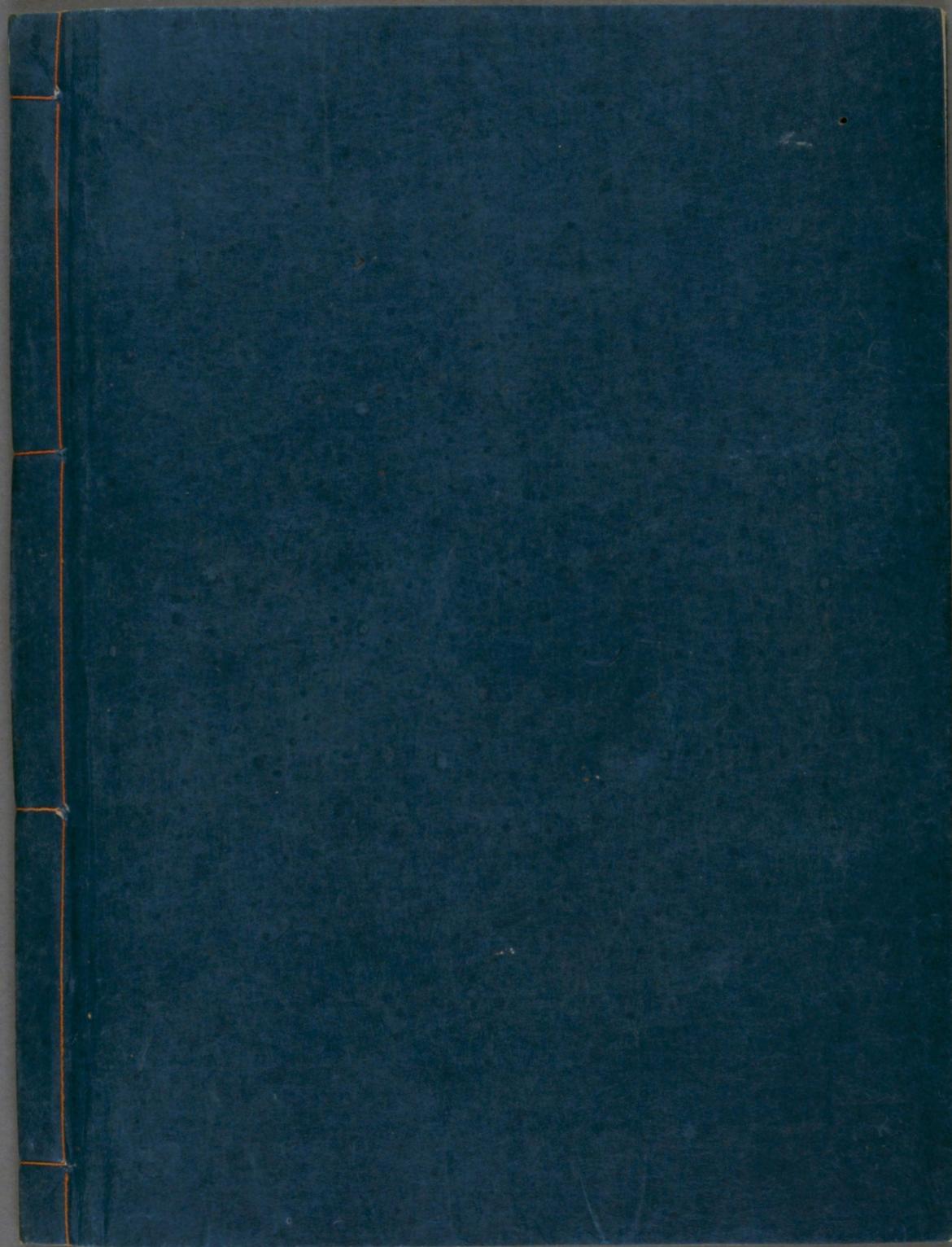




くらまゝりたまふしどがうらさ野の
 足あし乃念仲お記すらひそく月うぬ
 だらひんそり此時ちそりあめりやうそ
 日さりよはらぬさあぬ倉りあるまゝひ
 かしあやとむのしとあまのいんまはる
 かゝぬ

国立国会図書館





源氏物語 18 まつかせ WA7-263 18-028

国立国会図書館

